

令和6年8月5日

加西市議会議長 丸岡弘満 様

調査研究実施報告書

会 派 名	令和新風加西
代表者名	中 右 憲 利

下記のとおり行政視察を実施したので、報告いたします。

記

1. 調査年月日

令和6年7月9日（火）～11日（木）

2. 調 査 先

北海道北広島市 北海道岩見沢市 北海道美唄市 北海道滝川市

3. 参加者氏名

中右憲利、高見博道、北川克則 ※加西維新の会との合同視察

4. 研究目的及び内容

北海道北広島市（7月9日（火）13：30～15：00）

北広島市エコミュージアムセンター知新の駅について（詳細は別紙）

教育委員会教育部 エコミュージアムセンター知新の駅 渡邊センター長

教育委員会教育部 エコミュージアムセンター知新の駅 畠学芸員（主査）

北海道岩見沢市（7月10日（水）10：00～11：30）

デジタル技術活用による健康経営都市の取り組みについて（詳細は別紙）

情報政策部 黄瀬部長

情報政策部情報政策課 高田地域イノベーション推進係員

健康福祉部健康づくり推進課 三好課長

健康福祉部健康づくり推進課 榎本健康経営係長

議会事務局 寺西次長

議会事務局総務議事係 坂本書記

北海道美唄市（7月10日（水）13：30～15：00）

安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄について（詳細は別紙）

教育委員会生涯学習課 小見山課長

教育委員会生涯学習課 大沼課長補佐（社会教育主事）

議会事務局 新次長

北海道滝川市（7月11日（木）9：30～11：00）

公共施設等総合管理計画について（詳細は別紙）

市議会 山本議長

総務部企画課 鎌塚課長補佐

議会事務局議事政策係 高橋係長

5. 所感

各議員の所感は別紙のとおり

6. 添付書類

- （1）視察行程表
- （2）研修資料
- （3）写真

北海道北広島市（R6 年 7 月 9 日視察）

視察テーマ：北広島市エコミュージアムセンター知新の駅について

①北広島市の歴史

- ・北広島市は明治 17 年（1884 年）に広島県人 25 戸 103 人が集団移住し、開拓の鉾がおろされて以降、道央圏内の中でも宅地開発や工業団地の造成、都市施設の整備を着実に進め、平成 8 年（1996 年）9 月に市制を施行。
- ・また、明治時代初期、北海道南部より北の地方では困難とされていた稲作だが、北広島市では初めて稲作の安定した栽培に成功した地として、「寒地稲作発祥の地」とも言われている。
- ・さらに、クラーク博士が、「ボーイズ・ビー・アンビシャス」の名言を残したゆかりの地でもある。

②北広島市の歴史（地層・化石・野幌原始林）

- ・北広島市は、約 1 万年前から 100 万年前の時代に生息していた大型哺乳類や貝などの化石、約 150 万年前に北広島市が海だったころの海底の地層など、歴史的に貴重なものが見つかっている。
- ・エコミュージアムセンター知新の駅では、これらの実物化石やレプリカ、海底の地層標本を展示している。
- ・北広島市には道内に 7 つしかない（令和 6 年度時点）国の特別天然記念物に指定されている野幌原始林がある。
- ・石狩平野に遺存する原生的な森林として貴重であり、トドマツを含む針葉樹と広葉樹からなる針広混合林を特徴とする野幌原始林は昭和 27 年に特別天然記念物となり、令和元年には原生的な森林の拡大・回復において重要であるとされる場所が追加指定地として加わった。

③北広島市広葉交流センター「いこ〜よ」

- ・平成 22 年 3 月に開催された市議会第 1 回定例会で「学校設置条例」が改正され、北広島団地地区内にあ
る 4 小学校を 2 小学校に統合することが決定された。
- ・統合によって廃校となる 2 小学校については、地域住民のよりどころとなってきた市民の貴重な財産であり、有効活用することが必要であるとの考えに基づき、利活用の検討を進めた。

④広葉小学校跡地の利活用（基本的には指定管理）

- ・子育て支援
 - ☆児童センター
児童の健康を増進し、情操を豊かにするため、健全な遊びの提供
 - ☆学童クラブ（外部委託）
保護者が労働等により日中留守にしている家庭の児童の健全育成を図るため、放課後の適切な遊びや生活の場の提供
- ・文化振興及び地域交流機能
 - ☆エコミュージアムセンター知新の駅（市直営）
「北広島エコミュージアム」の拠点施設として、市の沿革、歴史遺産及び自然遺産に関する情報を発信する施設 企画展示や体験学習会などの実施
 - ☆地域交流スペース
活動室、音楽室、練習室、陶芸室などを貸出（貸室として活用）
- ・学習研修・スポーツ機能
 - ☆スポーツ施設（体育館・グラウンドの活用）
- ・地域防災拠点機能
 - ☆防災備蓄庫 ☆収容避難場所（体育館）、一時避難場所（グラウンド）

⑤工事費及び財源内訳（旧広葉小学校跡地利用全体について）

- ・工事費 建築・設備工事 346,500,000 円 設計・工事監理費 16,170,000 円 管理者住宅解体工事費 5,649,000 円 合計 368,319,000 円
- ・財源内訳 社会資本整備総合交付金（空き家再生推進事業）及び次世代育成支援対策施設整備交付金 168,196,500 円 起債 164,600,000 円 一般財源 35,522,500 円 合計 368,319,000 円

⑥北広島市エコミュージアムセンター知新の駅事業概要

・エコミュージアム構想の推進

☆平成 26 年 7 月に開館、統廃合後の小学校跡地施設を改修して利用、人づくりにつながるソフト事業と、施設設備等の設置や維持管理等を行うハード事業を行う。

・人づくりにつながるソフト事業①

☆町を好きになる市民大学の運営

平成 21 年度に開校した 2 年生の市民大学で、現在は 15 期生が在籍している。講義内容は、北広島市の郷土史や自然史などの他、博物館学概論、エコミュージアム論、野外実習等多分野にわたり、2 年間の課程修了者を「まるごときたひろしま博物館員」として認定。

☆市民大学 OB 会との共催事業

任意団体として活動する OB 会員は全員が「まるごときたひろしま博物会員」であり、日常的に博物的研鑽を積んでいることから、地域遺産を巡る行事の共同開催をしている。

エコミュージアム構想では、市民大学 OB 会と協働したエコミュージアム推進体制を模索している。

・人づくりにつながるソフト事業②

☆常設展示

知新の駅は町の情報を発信する館でもあり、常設展示として北広島市教育基本計画に掲載した 3 人の先人を紹介するコーナーを設けている。また、地球の歴史や生命誕生からヒト発生までの進化の道筋を掲示するほか、市指定文化財でもある貴重な哺乳動物の化石や珍しい地層の標本を展示している。

☆企画展の開催

知新の駅 1F に広がる企画展示スペースを使い、年間 2～3 本の企画展を開催し、学芸員の専門性が発揮される機会となっている。

・人づくりにつながるソフト事業③

☆発見の小径に行く

市民大学 OB 会との共催事業、北広島市に設定したサテライトを歩いて巡り、ガイドを市民大学 OB 会が行うツアーを実施。

☆地域遺産発見バスツアー

市内外に多数存在している自然遺産や歴史遺産を案内するバスツアーを実施。令和 5 年度は、北広島市で寒地稲作が成功してから 150 周年記念事業として、お米にちなんだバスツアーを実施している。

☆体験教室

体験教室として毎年 8 月上旬の「昆虫（カブトムシ・クワガタムシ）採集教室」を実施。

⑦エコミュージアムの考え方や狙い

- ・北広島市は実に多彩な遺産がそれぞれの地域に分散している。⇒町全体がエコミュージアムを推進するのにふさわしい遺産を持つ。
- ・「豊かな自然に恵まれた」まち⇒特別天然記念物野幌原始林、大規模斜交層理等自然遺産が存在し、市内で産出する貴重な化石が、野幌丘陵を中心に市内に広く分布してゐる。
- ・「大いなる志を抱いてきた」先人のまち⇒旧跡島松駅通所に代表される数々の開拓の歴史を継承し、年中行事、伝説や言い伝え、さらには地域の人々の心に残っている「記憶」も残すべき貴重な財産。
- ・「匠の偉業に支えられた」まち⇒時代の変化とともに忘れられる匠の技も後世に残すべき遺産。

北海道岩見沢市（R6 年 7 月 10 日視察）

視察テーマ： デジタル技術活用による健康経営都市の取り組みについて

①岩見沢市の概要と課題

- ・岩見沢市は、北海道の中西部、札幌市や新千歳空港から約 40km に位置し、道内を結ぶ国道や鉄道網を背景に、周辺産炭地にて産出される石炭や農産物に関する物流結節点として発展。
- ・また、行政面積（48,102ha）の約 42%を占める農地は、肥沃な土地と石狩川水系の豊富な水資源を活かし、水稻や小麦、大豆、玉葱等を中心とした道内有数の食料供給基地。

②デジタルを活用した産学官連携プロジェクト

- ・健康・少子化対策プロジェクト（北海道大学 COI&NEXT 連携）
 - ☆第 9 回プラチナ大賞（総務大臣賞）
 - ☆第 3 回日本オープンイノベーション大賞（日本学術会議会長賞）
 - ☆第 10 回健康寿命をのばそう！アワード（厚生労働大臣優秀賞）
- ・スマート農業関連プロジェクト
 - ☆北海道大学大学院農学研究院、NTT グループ等連携

③健康経営都市 岩見沢市

- ・健康経営とは
 - ☆「企業が従業員の健康に配慮することによって、経営面においても大きな成果が期待できる」との基盤に立ち、健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実践することを意味する。
 - ☆岩見沢市はこの考え方をもとに、市民の健康づくりの目的を「医療費の削減」や「介護予防」だけでなく、「健康で生きがいを持って暮らせるまち」へと変えていく「健康経営都市」を推進する。
- ・岩見沢市における健康経営都市の動き
 - ☆健康経営都市宣言⇒平成 28 年 6 月全国の自治体では初めて「健康経営都市宣言」の認定
 - ☆第 6 期岩見沢市総合計画の将来の都市像
 - 「人と緑とまちがつながり、ともに育み未来をつくる 健康経営都市」
- ・岩見沢市が目指す「健康経営都市」とは～人もまちも企業も元気で健康
 - ☆医療や介護等の公的サービス、健康診査やがん検診などの「まもる」健康
 - ☆市民自ら健康づくりを進める「つくる」健康
 - ☆環境づくり・人・地域・企業や啓発などを通じてこれらを「つなぐ」健康

④健康経営都市推進に向けた具体的取組み

- ・岩見沢健康広場
 - ☆主な実施事業

実施日	事業名	事業概要
毎日	健康測定	血圧、体組成、血管年齢、骨健康度、肌年齢等
	コミュニティスペース	バス待ち、昼食、待ち合わせ等に利用
火曜日 (月 2 程度)	健康チェックの日	健康測定及び保健師、管理栄養士、歯科衛生士による健康相談
毎週水曜日	シニアの元気、体操教室	音楽健康指導士による介護予防体操
毎週木曜日	北大 COI の日	カラオケ機器を使った介護予防教室
月 1 回	フードデイ	地元食材を使ったアイデア離乳食、健康な食事の試食やレシピ紹介
随時	各種保健事業	健やか健診（成人健診）、レディース健診、健康運動教室、ひゃっぴい体操教室など
	各種団体、会議等	健康、福祉関連団体の事業、会議等

※北大 COI とは、「少子高齢化の進む日本で、” 女性が安心して出産、楽しく子育てができ、子どもが周囲の見守りの中で健康に成長できる社会” ” 老いても健康を維持し楽しく暮らすことができ、たとえ病気になっても速やかに社会に復帰できる社会の構築が急務。

そのため、自分の健康がリアルタイムにわかり、自分の行動を変えられる「セルフヘルスケア」のしくみ、今と未来の健康度がわかる「健康ものさし」に基づく自分に最適な「おいしい食と、楽しく続けられる運動」。そして、住む場所、働く場所、どこにいてもリアルなコミュニケーションが生まれる場「健康コミュニティ」が必要である」との理念のもと活動する拠点。

・健康チェックの日（火曜日 月2回）～市民のセルフヘルスケアを推進

☆血管年齢、骨健康度、体組成、血圧を測定し、その結果をもとに保健師や管理栄養士がアドバイス
健康測定→健康相談→健康情報ポータルサイトへ保健師がアドバイスの入力→利用者はスマートフォン、パソコンから結果の参照が可能。過去との比較ができる。

・母子健康調査

☆子どもの成長や発達に及ぼす様々な要因を明らかにするほか、出生率の向上及び低出生体重児の減少に加え、これから生まれ育っていく子どもによりよい環境を与えること等を目的に、妊娠中の生活環境をはじめ、生まれた子の生活習慣や健康状態などを継続的に把握するコホート調査を H29 年 6 月から開始
☆プレママ・妊婦・ママ・乳児・幼児・学童→岩見沢市（便・血液・母乳・尿 食事・運動・生活 検査調査）→北大 COI（分析・結果アドバイス）→岩見沢市（母子へのケア）→母子

☆母子健康調査の成果

低出生体重児の減に向けた産学官によるこれまでにない取組として高い評価（②参照）

・すこやか健康手帳アプリ

☆市のサービスとして H28 年 5 月開始→R5 年 4 月 LINE アプリにリニューアル

☆安心して産み育てる環境形成を目的とした、妊婦や育児中の父母と保健師などの専門家をつなぐコミュニケーションツール

☆成長記録の共有

平均成長曲線上に自動グラフを作成、LINE の招待機能を使って家族で記録を共有

☆健康・子育て情報の配信→健康・子育てに関する情報をお知らせ、LINE でプッシュ配信が可能

☆保健師・管理栄養士等に相談→LINE でいつでも気軽に相談できる

☆予防接種のスケジュール管理→予防接種予約忘れ防止をサポート

・健康予報システム

☆国保・後期高齢・協会けんぽのレセプトデータ等から、性別、年齢別・年度別、中学校区別に以下のデータを収集し見える化

医療費 通院人数 通院回数 健康診断受診数 疾病種別

☆データ蓄積

国保・後期高齢 2017 年度～2022 年度までデータ蓄積済み

協会けんぽ 2017 年～2020 年度までデータ蓄積済み

☆予報機能の検証→蓄積した時系列のデータから将来の健康傾向を予報できるシステムの構築を目指す

・げんき発見ドック（岩見沢市と北大 COI による全国初の取組）

☆口の中から「げんき」を作る→高齢者が美味しく食事し元気で楽しく健康に暮らす、医療介護費の削減、地域の担い手確保 ビックデータを匿名化して大学、企業に提供

北海道美唄市（R6 年 7 月 10 日視察）

視察テーマ： 安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄について

①アルテピアッツァの概要

- ・アルテピアッツァ美唄は、かつて日本有数の炭鉱都市であった美唄市東部の旧炭鉱住宅街の小学校跡に作られた野外彫刻美術館。廃校となった栄小学校跡地を活用して、美唄市出身で世界的に有名な彫刻家、安田侃先生の大理石やブロンズの作品 40 数点を設置して開設した施設。
- ・平成 4 年オープン、敷地面積約 70,000 m²
- ・主な施設、アートのスペース（旧体育館） ギャラリー（旧校舎） ストゥディオ アルテ・カフェ アルテ（体験工房・喫茶室）
- ・公立の施設でありながら、展示作品は安田先生の作品のみであること、来館者が自由に作品に触ることが出来ること、作品の名称や解説などを一切排し、見る人に先入観を与えず、各人の自由な感性で、思うまま感じてもらう展示方法となっている。
- ・また、作者が現役で活動していることから、作家の意図や意志が施設づくりに直接反映されている。

②アルテピアッツァのこれまでの経緯と今後

- ・平成 9 年にギャラリーの整備を行い、平成 18 年に指定管理制度に基づく管理委託をし、平成 19 年にカフェと体験工房をオープン、平成 28 年に博物館法に基づく美術館となった。
- ・平成 29 年には 25 周年となり、記念の展示事業を開催したほか、伊プッチーニ財団協力によるオペラコンサートも行った。
- ・その間、平成 15 年には、天皇皇后両陛下が、北海道行幸啓でアルテピアッツァをご視察されたほか、美唄市が文化庁長官表彰を受賞する中心になるなど、四半世紀を経過する中で、国内外にアルテピアッツァの価値が広く認められてきた。
- ・今後は施設の経年変化対応、野外彫刻の損傷、市民の関心の低さなど、様々な課題を解決しながら、この美術館の魅力を市民にも国内外にも発信していく必要を感じている。

③運営及び管理、年間経費

- ・施設の管理運営については、開設から平成 17 年度までは直営施設、平成 18 年度からは、「認定 NPO 法人アルテピアッツァびばい」を指定管理者とする施設として現在まで、施設の運営・維持管理を行っている。
- 指定管理期間：5 ヶ年（R6 年 4 月 1 日～R11 年 3 月 31 日）

単位：千円

	管理運営費	うち指定管理費	備 考
令和 5 年度	46,605	28,064	カフェ、体験工房修繕等
令和 4 年度	43,369	24,611	開業 30 年記念事業など
令和 3 年度	30,070	22,424	修繕料など

④来館者の状況

	個 人	団 体	その他	計
令和 5 年度	8,811	2,412	11,495	22,718
令和 4 年度	13,096	2,083	7,696	22,875
令和 3 年度	8,325	1,265	4,396	13,986

⑤美唄市への観光に及ぼす影響

- ・美唄市では、地域や市民が誇るべき豊かな歴史・文化・自然を生かしながら「観光」を市の新たな成長分野として「美唄市観光ビジョン」を平成 30 年度に策定。
- ・急速に進む人口減少、少子高齢化、生産年齢人口の減少により、国内需要の減少による経済規模の縮小が避けられない中、コロナ感染症の扱いが 5 類へ移行し、長引く円安等に伴いこれまで以上のインバウンド需要が見込まれることから、今後、観光が地域活性化に果たす役割は非常に大きいと考えている。
- ・また、第 7 期の美唄市総合計画との整合性を図りながら、美唄市ならではの「食」「自然」「歴史文化」「芸術」などの素晴らしい地域資源を活用し、新たな体験メニューや滞在型観光商品の開発、受入環境の整備を進める方向性が示されたところ。
- ・安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄については、滞在型観光などのアートツーリズム開発の一役を担う、今後の観光振興の推進に欠かせない芸術文化施設と考えている。

⑥今後のビジョン

- ・平成 30 年に策定した「安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄ビジョン」を指針とし、令和 7 年度の改訂を目指して、安田先生や指定管理者等の関係団体と連携しながら、美術館としての設置目的を果たしていく。

北海道滝川市（R6 年 7 月 11 日視察）

視察テーマ： 公共施設等総合管理計画について

①公共施設マネジメントの取組について

・公共施設マネジメント方針（平成 24 年）

☆方針 1

公共施設の複合化・集約化を進め、必要な機能を維持しつつ、今後 10 年程度を取組期間として公共施設を可能な限り削減する。

☆方針 2

新たに公共施設を取得する際は、公共施設の複合化・集約化を行うことを基本とし、新たに取得する公共施設の床面積を超える規模の既存公共施設の床面積を削減する。

☆方針 3

今後も維持し続ける公共施設については、省エネルギー化を含む、計画的な修繕を行い、施設の長寿命化を進めるとともに、施設のライフサイクルコストを念頭においた歳入の確保策に努めることとする。

☆方針 4

公共施設の維持・管理及び運営については、PPP（官民連携）を基本とした、効率的で経済的な維持管理を行うこととする。

☆方針 5

削減の対象となった公共施設は、積極的に売却・賃貸・譲渡を進め、これにより得られる財源は、残存する公共施設の維持管理経費等に充てる。

②公共施設等総合管理計画について

・背景と目的

☆今後の人口減少と高齢化の進展が予想される中、これまでのストックの老朽化が進み、維持していくことが困難になることが見込まれることから、計画的に効率よく公共施設等の整備や維持管理を行うことを目的として「滝川市公共施設等総合管理計画」を策定（平成 27 年 2 月）

・公共施設等管理に関する基本方針

☆点検・診断等の実施方針

公共施設等の安全性を確保しつつ、効果的な維持管理や更新を実施していくためには、不具合が発生した都度修繕を行う「事後保全」から、施設の劣化や損傷の進行を未然に防止し、長持ちさせることを目的に計画的な補修を実施する「予防保全」への転換を目指す。

☆維持管理・更新等の実施方針

公共施設の日常点検、定期点検、診断等を踏まえ、維持修繕の優先順位付けを行い、予算の平準化を図る。

☆安全確保の実施方針

公共施設等の日常点検・診断等を通じて劣化状況を把握するとともに、災害発生時の機能保持のため、安全性の確保に努める。

☆耐震化の実施方針

「滝川市耐震促進計画（第 2 期）（平成 30 年 3 月）」に基づき、日常の安全性の確保に加え、災害時においても十分に避難所としての機能を発揮できるよう耐震化を推進する。

☆長寿命化の実施方針

予防保全型の修繕を導入することにより、財政負担の低減及び平準化と施設の長寿命化を進め、施設のライフサイクルコストの低減を図る。

☆ユニバーサルデザイン化の推進方針

施設の改修・更新等に際しては、ユニバーサルデザインの視点に立ち、計画的な環境整備に取り組む。

☆脱炭素化の推進方針

施設の改修・更新等に際しては、脱炭素社会の実現に貢献するため、「太陽光発電の導入」、「建築物における ZEB の実現」、「LED 照明の導入」等に取り組む。

※ZEB：「Net Zero Energy Building」の略称。一定の省エネルギーを図った上で、再生可能エネルギー等の導入により、エネルギー消費量をさらに削減した建築物。

☆統合や廃止の推進方針

厳しい財政状況が予想される中、限られた財源で公共施設の機能の維持・向上を行うため、公共施設の選択と集中を行う。

☆総合的かつ計画的な管理を実現するための体制の構築方針

すべての公共建築物を一元的に情報管理し、組織横断的な調整に当たる組織及び意思決定機関として、「総務部財政課行財政改革推進室」が専門実施組織となり、「行財政改革推進本部会議」が進行管理を行っていく。また、インフラ資産等については、専門的な技術やノウハウの蓄積があるそれぞれの所管課において実施する。

・公共建築物の考え方

☆学校施設

「【第2期】滝川小・中学校適正配置計画」に基づき、小・中学校の適正規模の確保と適正配置を進め、学校の統廃合と合わせて改築・大規模改修を行い、教育環境の整備に努める。

☆公営住宅

「滝川市住生活基本計画（第2期）」及び「滝川市公営住宅等長寿命化計画（第2期）」に基づく施策を進め、人口動向に応じた必要戸数の確保と、老朽化住宅の計画的な解消を図り、持続可能な住環境の整備を進める。

☆コミュニティ関連施設

「滝川市都市計画マスタープラン」に基づき、コンパクトタウンの形成に向けた小学校区を基準とした新たなコミュニティ街区を形成するため、小学校のコミュニティの拠点化に向けた協議・検討を進める。

☆福祉関連施設

民間の有するノウハウを活用したサービス水準の向上や効率的な運営を目指し、官民連携事業の導入を進めるほか、同種の目的・機能を持つ施設の集約化など施設のあり方の検討を進める。

☆文化・スポーツ関連施設

施設の有する機能及び総量の最適化を検討し、施設の集約化・複合化の検討を進める。

☆その他の建築物

官民連携により施設の持つ機能を最大限に引き出し、新たな歳入の確保、施設に係る維持・管理・更新などの費用の低減に取り組むとともに、長期的な視点に立った施設の長寿命化を図ることにより、施設のライフサイクルコストの低減に努める。

☆遊休施設の取り扱い

今後、使用する見込みがなくなった公共施設については、廃墟とすることなく、必要な方に最大限利用いただくため、積極的に譲渡や有償貸与を進め、これらの公共施設の売却・貸与等によって得られた財源は、存続する公共施設の維持管理経費等に充てることを原則とする。その際、人口減少や厳しい地域経済情勢を背景とした不動産ニーズの低迷から、公共施設の譲渡や貸与が進まない場合にあっては、産業振興や保健福祉関連部署などと連携し、地域の活力向上や地域福祉の向上、定住人口の増加につながる機能などの誘致を目指し、施設の無償譲渡及び無償貸与を行うことも検討する。

また、行政としての利用目的がなく、施設の損傷等が著しく、使用に耐えなくなった公共施設については、「公共施設等の除却のための地方債の特例措置」の使用可能期間において撤去し、更地とした上で、土地のさらなる有効活用を検討する。

・インフラ資産の考え方

☆道路及び橋梁

「滝川市舗装個別施設計画」及び「滝川市橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、定期的な調査を実施し、計画的かつ予防保全的修繕を実施することにより、道路利用者の安全性・快適性を確保するとともに、維持管理コストの縮減を図る。

☆公園

「滝川市公園施設長寿命化計画」に基づき、年1回定期点検を行い、利用者の事故を防ぐとともに、長寿命化に向けた適切な改築・更新時期を定め、遊具及び施設の延命を図る。

☆下水道施設

「滝川市公共下水道ストックマネジメント計画」に基づき、管渠の定期的な調査、点検と延命化を含めた維持修繕及び改築を計画的に行い、維持管理コストの縮減を図る。

〔所感〕 中右憲利

【北海道北広島市】 北広島市エコミュージアムセンター知新の駅について

- ・北広島市は札幌市に隣接し、日本ハムファイターズの本拠地球場を核とする複合施設「北海道ボールパークFビレッジ」に、北海道医療大学のキャンパスが移転することも決まっている発展中の自治体である。
- ・ただ古くからの住宅地がさびれ、その人口、子どもの数が減って、4校あった小学校を2校に統廃合した。
- ・そのうちの 하나가広葉小学校でその跡地は地域の中心として広葉交流センター「いこ〜よ」に生まれ変わった。指定管理で維持管理され、カルチャーセンター風の貸室、児童センター等の他、市からの委託による学童クラブ、市直営の「エコミュージアムセンター知新の駅」などがある。
- ・「エコミュージアムセンター知新の駅」については、約1万年前からの北広島市の歴史が学習できるようになっている。
- ・海底の地層、マンモス象の模型等迫力ある姿が印象的、また北広島市を発展させた3人の偉人の業績なども詳細に紹介されていた。そしていろいろな化石のレプリカは、学芸員と子どもたちが協働で、スタyroフォームなど使って作ったということ。
- ・加西市も特に小学校校舎等の跡地利用としては、地域の核としての施設、地域活動の拠点となり、地域に対する愛着を持てるような利活用の仕方をしてもらいたいと思った。

【北海道岩見沢市】 デジタル技術活用による健康経営都市の取り組みについて

- ・約30年前から光ファイバー回線によるデジタル技術活用の基盤を築いてきたという岩見沢市。北海道大学等産官学連携して、地域社会の様々な分野でデジタル技術を活かして課題解決に取り組んでいる。(ちなみに岩見沢市の情報政策部長は、北海道大学の客員教授や総務省の地域情報化アドバイザー、デジタル庁のデジタル推進委員等を兼ねている。)
- ・特に農業分野では農業機械の自動運転等、スマート農業の先進地であり、健康・少子化対策プロジェクトでは総務大臣賞等、数々の大きな賞を受賞している。
- ・平成28年6月全国の自治体では初めて「健康経営都市宣言」の認定を受けている。
- ・「健康経営都市」とは①医療や介護等の公的サービス、健康診断やがん検診などの「まもる」健康 ②市民自ら健康づくりを進める「つくる」健康 ③環境づくり・人・地域・企業や啓発などを通じてこれらを「つなぐ」健康、これらが実施されて「人もまちも企業も元気で健康」な都市のこと。
- ・岩見沢市では、妊娠期から母子の健康状況を把握、また「健康ひろば」を毎日開催して健康測定、介護予防体操、健康な食事のレシピ紹介等を行って、そのデータを蓄積し、北海道大学等と連携して分析し、保健師や管理栄養士からのアドバイスをスマホやPC等から受けられるようになっている。また高齢者の健康については「げんき発見ドック」で口の衰えを防ぐことを中心に健康の維持・増進を図っている。
- ・企業がデジタル技術等駆使して経営し、利益を出していくのと同じように、自治体がデジタル技術等を駆使して市民の健康の維持・増進を図って自治体経営をするという考え方は素晴らしいし、産学官等連携をして健康を経営していくという姿勢が先進的だと思った。

【北海道美唄市】 安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄について

- ・かつて日本有数の炭鉱都市であった美唄市、炭鉱が閉鎖されて人口が激減し、広大な小学校跡地に美唄市出身の世界的に有名な安田侃氏のアトリエ、美術館をつくった。
- ・この美術館は野外美術館であり、誰でもどこからでも入れるようになっている。当然入場料は取らないし、とれない。
- ・広大な敷地の中に、名前や解説等が一切ない大きな彫刻がぽつんぽつんと設置してあり、触っても構わないとのこと。
- ・指定管理によってよく管理が行き届いていて、そこにいるだけですがすがしい感じがした。平成 29 年には 25 周年となり、イタリアプッチーニ財団協力によるオペラコンサートも行われた。
- ・その間、平成 15 年には、天皇皇后両陛下が、北海道行幸啓でアルテピアッツァをご視察され、美唄市が文化庁長官表彰を受賞する中心になるなど国内外にアルテピアッツァの価値が認められてきた。
- ・今後は滞在型観光などのアートツーリズム開発の一役を担う、観光振興の推進に欠かせない芸術文化施設と位置付けられている。
- ・素晴らしいアイデアで小学校跡地を見事に活かされていると思った。これからも観光振興などの核となる施設だと思う。
- ・ただ、アルテピアッツァからの帰りの道中で見せてもらった、陸上競技場、サッカー場等の施設が、おそらく炭鉱閉山時の国の補助金で作られたと思うが、少し管理が行き届いてないように感じた。お金が出るからといって建設しても後々お荷物になってしまう可能性もあるのではないかと感じた。

【北海道滝川市】 公共施設等総合管理計画について

- ・公共施設マネジメント方針としては以下の通り。
 - ①公共施設の複合化・集約化を進め、必要な機能を維持しつつ、今後 10 年程度を取組期間として公共施設を可能な限り削減する。
 - ②新たに公共施設を取得する際は、公共施設の複合化・集約化を行うことを基本とし、新たに取得する公共施設の床面積を超える規模の既存公共施設の床面積を削減する。
 - ③今後も維持し続ける公共施設については、省エネルギー化を含む、計画的な修繕を行い、施設の長寿命化を進めるとともに、施設のライフサイクルコストを念頭においた歳入の確保策に努めることとする。
 - ④公共施設の維持・管理及び運営については、PPP（官民連携）を基本とした、効率的で経済的な維持管理を行うこととする。
 - ⑤削減の対象となった公共施設は、積極的に売却・賃貸・譲渡を進め、これにより得られる財源は、残存する公共施設の維持管理経費等に充てる。
- ・上記は一番基本となる方針だが、やはり公共施設を建設し維持管理するための明確な方針があり、それに従って、きちんと審議をして進めていく必要があると思った。
- ・財政に余裕があれば何かハコモノを作りたいと思うのはどこの首長も同じだと思うが、今まで入ってきていたお金がいつまでも入ってくることは限らず、作った多くのハコモノのランニングコストで首が回らなくなるというのはよくある話。
- ・滝川市はおそらく厳しい人口減少を経験し、これからも続く人口減少を見据えて厳しい公共施設等総合管理計画を作られていると思う。素晴らしい取り組みだと思う。

〔所感〕 高見博道

【北海道 北広島市】

北広島市エコミュージアムセンター知新の駅について

北広島市のエコミュージアムセンターはソフト事業とハード事業を融合して、統廃合後の小学校跡地を利用して運営されている。

ソフト事業としては、「まちを好きになる市民大学」、ハード事業として施設の維持管理とともに地域遺産の説明版や案内標柱の設置なども行っている。また、交流センター機能もあり地域住民の活動の場ともなっている。

学校跡地の利用について、行政だけでなく民間の管理とも併用しているところは加西市の学校統廃合後の考え方についても参考になると感じた。

また、博物館の展示物について地元小学生とともに作成している点なども大変参考になった。

ちなみに、クラーク博士の有名な「少年よ大志を抱け」はこの北広島市の地での発言であるそうです。

【北海道 岩見沢市】

デジタル技術活用による健康経営都市の取り組みについて

岩見沢市では人口減少時代においてデジタル技術や地域資源・特性を用いながら「地域社会の持続性確保」のため、「どこでも」「誰もが」健康で活躍でき、便利に快適に暮らせる社会を目指している。

デジタルを活用した産官学連携プロジェクトとして、「健康・少子化対策プロジェクト」や「スマート農業関連プロジェクト」が行われている。スマート農業については小説の「下町ロケット」のモデルになっているとのことでした。

健康・少子化対策プロジェクトについて、保険データを活用して、性別や年齢、年度別に医療費や通院数を可視化している。データを見える形にすることで病気の予防対策などいろいろな活用ができる点、加西市でも活用できるのではないかと感じた。

【北海道 美唄市】

安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄について

最初に驚いたのは、美唄市の美術館であるにもかかわらず、地元出身の彫刻家おひとりの作品だけの美術館であること、展示に関しても作者の意向で配置していることなどです。

学校跡地に利用をして、ほとんどの作品は屋外に展示していますがそれを効果的に見せるため人工的に丘を作ったり小川を作ったりして全体の融合を図った美術館となっていました。

加西市の学校跡地の活用についてもありきたりな活用ではなく一つ枠をはみ出した発想が必要ではないかと感じました。

帰りに美唄駅でさりげなく安田侃先生の作品がベンチの横にあり街に溶け込んだ活動であることを感じました。

【北海道 滝川市】

公共施設等総合管理計画について

滝川市では、これまでの公共施設に関する取り組みとして、平成10年～14年に第1次行革として「コスト削減を中心」に、平成15年から16年に第2次行革として「市役所自身の変革」が行われている。児童センターや自然の家、保育所、市民プール・学校プールの配置など公共施設の統廃合が行われた。

また、施設の休館日や利用時間の見直しなど管理項目も見直されている。施設によってはアウトソーシングすることにより管理体制を見直している。

公共施設のマネジメントとして、施設の利用状況を見て複合化・集約化を行っていく。また、新たに公共施設を建てる場合は以前の施設面積以下にするなど、床面積が増えないようマネジメントされている。

公共施設の維持管理及び運営もPPP（官民連携）を基本として効率的で維持管理を行っている。

そのようなこれまでの取り組みを踏まえ、公共施設等総合管理計画が進められているようであるが、人口減少や高齢化により、市税や地方交付税の減少などが見込まれることもあり、持続可能な公共施設の運営が必要と考えられる。

この点については加西市においても同じことが言えると思う。現在はふるさと納税が好調ではあるが人口減少、高齢化は同じくする問題であるため、将来を見据えた財政運営は当然のことである。

〔所感〕 北川克則

【北広島市】北広島市エコミュージアムセンター知新の駅について

北広島市は、新千歳空港と札幌市の中間に位置し、日本ハムファイターズの本拠地スタジアムがあり、スタジアム周辺をボールパーク構想により開発が進められ、まさに発展している市ですが、かつて道営住宅団地（北広島団地）が造成され、短期間に同世代が居住しているので、一気に少子高齢化が進み、学校統廃合は加西市より先行しています。

エコミュージアムセンター知新の駅は、北広島エコミュージアム構想のコア施設として、廃校になった旧広葉小学校施設を活用して、広葉交流センター内に整備されています。

下記に注目点を紹介します。

① 小学校跡施設（2階建て校舎、体育館、グラウンド）を改修し、多用途に活用されている。

○子育て支援、高齢者福祉機能

・児童センター・学童クラブ・いきがいデイサービス

○文化振興、地域交流機能

・エコミュージアムセンター知新の駅

・地域交流スペース（活動室、音楽室、練習室、陶芸室などを貸出）

○学習研修・スポーツ機能

・粗大ごみリユース（展示広場、作業室など）

・スポーツ施設（体育館、グラウンド）

○地域防災拠点機能

・防災備蓄庫

・収容避難場所（体育館）、一時避難場所（グラウンド）

② 展示に加えて人づくりになるソフト事業による郷土の歴史を承継されている。

○まちを好きになる市民大学の運営（人材育成）

・2年間の課程修了者を「まるごときたひろ博物館員」に認定する。

○市民大学OB（96名）の活躍

・エコミュージアムセンターの各種事業を支える。（サテライトツアーへの協力など）

○大いなる志を抱いて来た先人（3人）の紹介展示（郷土愛の醸成につながる）

○子供たちも楽しめて体験もできるミュージアムとその迫力に感動（魅力ある集客力）

・市内の巨大な航空写真がビジターホールの床一面に

・地球の歴史や生命誕生からヒト発生までの進化の道筋を廊下に展示

・マンモスの実物大模型を子供たちと協働で制作（北広島ナウマンゾウ復活プロジェクトも）

・迫力ある常設展示（実物大マンモス模型、キタヒロシマカイギュウのレプリカ、
サンドリッジ成大規模斜交層理の巨大転写標本、化石など）

③ 小学校施設の再利用には、相応の改修費用が必要である。

○改修費用の概略は割愛しますが、国庫支出金（全体の約45.7%）の活用など、市の負担軽減の財源確保はされていましたが、単なる建物の補修費用だけでなく、断熱施工などの省エネ化やユニバーサル化に、相応の費用が必要と感じました。

※エコミュージアム：市域全体に残された史跡、建造物、産業遺跡などを「遺産」ととらえ、その展示や活用を通じて地域全体を「屋根のない博物館」とした、地域づくりにもつながる取り組みです。

【岩見沢市】デジタル技術活用による健康経営都市の取り組みについて

岩見沢市は、市民の健康づくりの目的を「医療費の削減」や「介護予防」だけでなく、「健康で生きがいを持って暮らせるまち」へと変えていく「健康都市宣言」を推進されています。また、北海道大学 COI（センターオブイノベーション）と協働で、デジタル技術も活用し取り組まれています。

下記に注目点を紹介します。

① 市の目指す姿に「つなぐ」もしっかりと設定されている。

岩見沢市が目指す「健康経営都市」とは

- ・医療や介護等の公共サービス、健康検診やがん検診などの「まもる」健康
- ・市民自ら健康づくりを進める「つくる」健康
- ・環境づくり・人・地域・企業や啓発などを通じてこれらを「つなぐ」健康

② デジタルを活用して市民のセルフヘルスケアを推進されている。

- ・様々な健康チェックを実施
(骨健康度測定、肌年齢測定、血圧測定、体組成測定、あたまの元気度チェック、足の筋力測定)
- ・専門家からのアドバイス（保健師、管理栄養士など）
- ・測定結果と比較やアドバイスがスマホや PC で見られる。(健康状態の見える化)

③ すこやか健康手帳アプリ（LINE）を活用してプレママも含めた母子へのケア

- ・健康や子育て情報や予防接種スケジュールの配信
- ・母子健康情報や成長記録の共有で専門家によるアドバイスやアテンドも
(保健師、管理栄養士、保育士、歯科衛生士が連携してサポート)

④ 「げんき発見ドック」プログラム（岩見沢市×北大 COI による全国初の取り組み）による、ポジティブな健康維持・増進とフレイル予防・改善の取り組み

- ・匿名化したビックデータを大学や企業に提供
- ・大学や企業がプログラムに参加（開発、研究、実証などを目的に）
- ・「クチトレ」の実施（口の中から「げんき」をつくる） ⇒ ※特に注目したい！

【美唄市】安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄について

美唄市は、かつて国内有数の炭鉱都市として栄えましたが、エネルギー革命により、市の東部山間部に多数あった炭鉱は閉山され、人口が大きく減少しました。旧炭鉱住宅街の栄小学校（校舎は昭和 24 年、体育館は昭和 33 年に完成）も生徒が減少し昭和 55 年に閉校となりました。この美術館は、廃校を利用して、本市出身で世界的に著名な彫刻家、安田侃先生の作品を設置して開設された野外美術館です。

下記に注目点を紹介します。

① 野外設置の作品は、設置場所や施工にもこだわり、自然環境と一体した空間が創造されている。

（木造校舎や木造体育館、芝生広場、木々、せせらぎ、周りの山が、作品と一体化）

② 作品には解説プレートが無く、訪れた人の自由な発想で鑑賞できる。

③ 作品と自然がマッチした絵画の様な景観は、自由で和やかで、スローな優しい気持ちになれます。

④ 市の直接管理から指定管理者に移行され、安田先生を慕われている方々が集われている「NPO 法人

アルテピアッツァびばい」に委託されているので、草木の手入れなど自然環境が相手で大変な作業と思いますが、とても丁寧で行き届いた管理がされていて熱意が感じられました。

⑤ 対話型美術鑑賞（対話力養成プログラム）、市内中学生の心象を粘土で具現化する授業、こころを彫る授業（安田侃先生の直接指導）など、創造力を育む多彩なソフト事業が行われている。

⑥ 美唄市の代表的な観光施設として、世界に類を見ない素晴らしい施設と空間は、今後の重要な観光資源として期待されます。

- ・市民の意識調査「美唄のお勧めポイントは？」において第2位の60.8%（市民意識の高揚）
- ・コロナなどの影響で来館者数は一時減少しているが、世界的な作家の作品と素晴らしい景観は、これまで以上のインバウンド効果が見込まれる。（来館者は市外が殆ど＝魅力ある施設）

【滝川市】公共施設等総合管理計画について

滝川市は、札幌市と旭川市の中間に位置する交通の要所で、独自の中核都市です。公共施設に関しては、これまでも「滝川市活力再生プラン」として施設の見直しを行い、施設の廃止による売却や譲渡、施設の統廃合や施設管理のアウトソーシングが進められてきました。

今後の人口減少と高齢化の進展が予想される中、ストック施設の老朽化が進み、維持が困難になることを見据えて、計画的に整備や維持管理を行うことを目的として、平成27年より「公共施設等総合管理計画」を策定されています。

公共施設等総合管理計画の取組みについて、下記に注目点を紹介します。

① 公共施設マネジメントに取り組まれている。

- ・方針1 複合化・集約化により削減
(必要な機能は維持しつつ、可能な限り削減する。)
- ・方針2 施設総量を今以上増やさない。
(新たに取得する施設の床面積を超える既存施設の床面積を削減する。)
- ・方針3 機能性を高め計画的に修理
(今後も維持する施設は、省エネ化やユニバーサル化とライフサイクルコストの検討を！)
- ・方針4 施設の維持管理及び運営は、PPP（官民連携）が基本
- ・方針5 削減の対象施設は除却活用する。
(積極的に売却・賃貸・場合によっては無償譲渡し、資産を無駄なく活用する。)
- ・方針6 広域による運営や共有
(ない施設は作るのではなく、広域共有して、無駄なく活用する。)

② 公共施設白書を作成されている。（市内142施設を評価し、将来性を分析されている。)

※建て替えや機能集約後の既存施設を積極的に除却し、一般的な土地活用を検討し進められているのが、とても印象的でした。（遊休施設除却事業）

以上

令和新風加西、加西維新の会 行政視察 行程表

7月9日（火）

09：15 発 神戸空港（SKY173 便）

11：05 着 新千歳空港

〔新千歳空港内で昼食〕

12：39 発 新千歳空港駅（JR 千歳線：区間快速エアポート 75 号）

13：05 着 北広島駅

【エコミュージアムセンターの公用車】

13：30～15：00 北広島市視察〔エコミュージアムセンターにて〕

（TEL：011-373-0188：エコミュージアムセンター）

・北広島市エコミュージアムセンター知新の駅について

【エコミュージアムセンターの公用車】

16：05 発 北広島駅（JR 千歳線：快速エアポート 121 号）

16：23 着 札幌駅〔乗換〕

16：37 発 札幌駅（JR 函館本線）

17：18 着 岩見沢駅

【岩見沢駅から徒歩 5 分】

《宿泊》岩見沢ホテル 4 条

7月10日（水）

09：45 発 ホテル

【徒歩 6 分 450m】

10：00～11：30 岩見沢市視察〔自治体ネットワークセンターにて〕

岩見沢市コミュニティプラザ 3 階 AV 会議室

（議会事務局 TEL：0126-35-4907）（センター TEL：0126-35-）

・デジタル技術活用による健康経営都市の取り組みについて

【徒歩 1 分】

12：03 発 岩見沢駅（JR 函館本線）

12：18 着 美唄駅

〔美唄市内で昼食〕

【美唄駅から徒歩約 5 分】

13：30～15：00 美唄市視察（TEL：0126-63-0141）

・安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄について

【美唄市議会の公用車】

15：58 発 美唄駅（JR 函館本線）

16：16 着 滝川駅

【滝川駅から徒歩 7 分】

《宿泊》ホテル三浦華園

7月11日（木）

09：00 発 ホテル

【滝川市議会事務局の公用車】

9：30～11：00 滝川市視察（TEL：0125-28-8048）

・ 公共施設等総合管理計画について

【滝川市議会事務局の公用車】

12：01 発 滝川駅（JR 函館本線）

12：42 着 岩見沢駅〔乗換〕

13：12 発 岩見沢駅（JR 函館本線）

13：56 着 札幌駅〔乗換〕

14：03 発 札幌駅（JR 千歳線：快速エアポート 112 号）

14：47 着 新千歳空港駅

16：45 発 新千歳空港（SKY174 便）

18：40 着 神戸空港

北海道北広島市



北海道岩見沢市



北海道美唄市



北海道美唄市



北海道滝川市

